

県立美術館の検討状況

平成 28 年 6 月 23 日

県立博物館

1 美術館整備基本構想検討委員会

平成 27 年 7 月に設置以後、美術館を整備する場合の基本的な考え方や施設のコンセプト、必要となる機能や施設・設備、それを踏まえた想定工事費、そうした施設が立地するのにふさわしい条件、想定される事業と、それを実施するのに必要な運営費等について、順を追って議論されてきた。

< 主な検討内容 >

必要性

- 鳥取県の美術の継承と発信
- 内外の美術との接触と交流
- 県民の創造性と鳥取県の魅力の向上

コンセプト

- 鳥取県にゆかりのある美術の蓄積・継承に努めるとともに、国内外の優れた美術を鑑賞・学習する機会を提供する。
- 県民に、鳥取県の文化的個性を確認しつつ、多彩で良質な美術に親しんでもらうことにより、文化的な独創性・創造性を育む。
- 鳥取県の文化的な個性や魅力を高め、様々な芸術、文化があふれ心豊かに暮らせる地域を創り上げる。
- 美術を介して県内外の多くの人を引き付け、様々なヒト・モノ・コトを結び付けて、新たな交流と発展の核となる。

施設・設備モデルと建築工事費

- ・延べ床面積：12,240㎡(収集保管；2,280㎡、展示2,450㎡、教育普及550㎡、地域・県民連携1,000㎡など)
- ・建築工事費概算額：約70～100億円程度

事業計画

- ・収集保管：本県にゆかりのある美術作品の収集保管など
- ・常設展示：収蔵作品のジャンル別展示や野外等のオープンスペースでの展示
- ・企画展示：本県ゆかりの作家の展覧会に加え、国内外の著名作家の展覧会の充実や「まんが王国」である本県の特徴を活かしてポップカルチャーに関する展覧会を開催
- ・教育普及：県内の小学3年生全てが年に1回は美術館に来館する取組やワークショップの充実、ファミリー向け・子ども向けのプログラム等実施
- ・地域・県民連携：県民の創作発表機会の提供やアーティスト・イン・レジデンスの取組のほか、ボランティアスタッフの活動の拠点化等を進める

入館者目標数

- ・約20万人(H26実績；約6万人)

運営費試算

- ・約3.9億円(H26決算；約2.4億円)

2 美術館候補地評価等専門委員会での議論

立地場所については、6市町から12箇所の候補地を推薦していただき、建設計画が凍結されたままになっている鳥取市桂見の土地を加えた13カ所について、各立地条件について専門的識見を有し県内事情等に精通している方を鳥取県立美術館候補地評価等専門委員に委嘱し、現地調査の上、専門的・客観的な視点から審議していただいた。

< 適していると評価された候補地 > (6月21日専門会議結果)

鳥取市役所跡地、鳥取砂丘西側一帯、倉吉市営ラグビー場、旧鳥取県運転免許試験場跡地

< 立地条件 >

- 1 様々な人が気楽に訪れることのできる場所
 - (1) 交通アクセスが便利・容易であること。
 - (2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。
- 2 地域づくり・まちづくりと連携し易い場所
 - (1) 他の文化施設や教育機関と連携し易い立地であること。
 - (2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。
- 3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所
 - (1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。
 - (2) 防災上安全な土地であること。

3 県民、議会等からの意見等

- ・ 場所の議論ばかりで、美術館の中身の議論が不十分ではないか。
- ・ 財政上の問題が懸念される(身の丈に合ったものを考えるべき、欲張りすぎではないか、など)。
- ・ 入館者数20万人も背伸びしすぎ。
- ・ 美術館の必要性に疑問を感じる。
- ・ 子どもたちへの教育的機能を期待する意見がある一方、文化芸術の振興、あるいは観光面、地域活性化の側面で期待する意見もある。

4 今後の進め方

- ・ 事業規模等の見直しの検討
財政上問題等を懸念する声を踏まえ、次回の基本構想検討委員会(6/27開催)において、「事業規模の縮小」や「入館者目標数(事業計画)の見直し」を検討する予定。
- ・ 県民の理解を深める取組強化
6/18・19の米子・倉吉会場に引き続き、7/10に鳥取会場で県民フォーラムを開催。
既存の出前説明会の継続に加え、新たに「市町村の公民館や民間の集まり等に出掛けていくキャラバンの集會」などを実施して、比較的関心の低い県民への周知を強化していきたい。
- ・ 県民意識調査の実施
県民の関心の高まりを睨みながら、時期を見て、美術館整備の検討内容について、県民意識調査を実施して、県民の意向を把握する。
県民意識調査：住民基本台帳から約3,000名を無作為抽出
(各市町村16歳以上人口比で抽出)

上記の取組を進めながら、期限を設けず、基本構想の取りまとめを進めていきたい。